



インド

38 ハルディア港近代化事業

A
B
C
D

ガンジス川河口の主要港である西ベンガル州ハルディア港において、石油栈橋等を整備することにより、貨物取扱量の増加および運営の効率化を図り、もって同地域の経済発展に寄与する。

承諾額/実行額 37億9,100万円/19億3,300万円
借款契約調印 1986年12月
借款契約条件 金利3.25%、返済30年(うち据置10年)、部分アンタイド
貸付完了 1992年12月



外部評価者 笹尾隆二郎 (アイ・シー・ネット(株))
現地調査 2003年8月

評価結果

本事業では、第一石油栈橋の補強および荷役設備の調達等に関しては、インド側の自己資金により実施されることとなったが、第二石油栈橋と付帯施設の建設については、ほぼ計画通りに実施された。入札や潮流の影響による工事の長期化によって、期間は計画を大幅に上回ったが、事業費はほぼ計画通りであった。本事業によって、貨物取扱量は1999年度には計画値(1,742万トン)を超え、2002年度には、同年度の大阪港の2,269万トンを上回る2,860万トンに増加し、特に原油の取扱量の増大が顕著となっている。また、平均滞船時間は、92年度の2.0日から、99年度には1.6日、さらに02年度には0.9日と短縮されており、効率的な港湾運営が実現している。本事業により、ハルディア地区の製造業の付加価値額は97年度から02年度にかけて87%増加し、全国平均の18%増を大幅に上回っ

ている。このほか、ハルディア港周辺の主要企業への受益者調査では、「大量の原油輸入が可能となり、精油所の稼働率が上昇した」「取扱能力が向上し滞船時間が減少した」「雇用が増加した」等、本事業による地域経済振興への貢献に関する声が多く聞かれた。実施機関であるカルカッタ港湾公社の技術および体制面は問題なく、財務面も良好である。

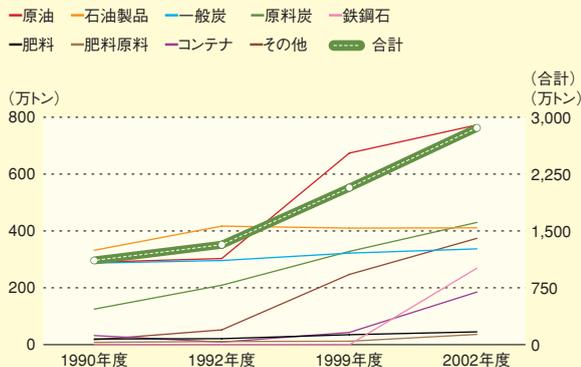
第三者意見

ハルディア港は、インドにおける重要な港の一つであり、大口ユーザー(精油所)の施設拡張後、港の収益力はさらに高まり、周辺では石油化学、肥料などの産業が繁栄している。

有識者 Ms. Pushpa Trivedi

ボンベイ大学博士課程修了(経済学)。現在インド工科大学経済学部教授。専門は経済開発など。

ハルディア港の貨物取扱量



ハルディア港第二石油栈橋近景



受益者調査では「大量の原油輸入が可能となり精油所の稼働率が上昇した」「取扱能力が向上し滞船時間が減少した」「雇用が増加した」等、本事業による地域経済振興への貢献に関する声が多く聞かれた。